



任意団体 ECO village SHELTER project

森と生きるナチュラルビルディングの村 ～里山の暮らしから起こす パーマカルチャーデザインとその実践

入門助成

1年目

実践

森林の整備

3ha

整備で出た材を活用し、
制作した建造物

5棟

活動の全体目標に
対する達成度

85%

課題

里山の暮らしは資源循環型の暮らしであったが、近年自然環境は荒廃し知恵や技は衰退しており、また、次世代の自然離れが深刻化し、里山文化は消失する恐れがある。

目標

- 里山の「資源が循環する持続可能な暮らし」が現代に見合った形で継承（復元）されるための学びの空間および機会を創出すること。
- 昔ながらの暮らしに倣い自然に手を入れ、森や耕作地が健全な状態で保たれること。

活動内容

団体のメンバーを中心に、森林整備を実施し(計46回)、手入れを通じて出た材を活用して、自然と調和するナチュラルビルディング(遊具、森の案内所、薪棚、コンポスト、キッズテント)や集いの広場を制作・造成した。また同様の活動を、子ども向けにアレンジしたワークショップを開催し(9回)、森の資源的価値や環境への配慮といった考え方を丁寧に伝えながら、みんなで資源循環型の村をつくる環境教育プログラムを実施した。



秘密基地作り。大勢の人が集う森になった。

達成できなかったこと

新規事業であり、メンバー内で活動を共有・定着することに時間を要し、整備を行う仲間を大幅に増やせなかった。他の地域団体との協働を思うように進められなかった。

今後の展望

地元住民や他の団体と協働し、様々な人のアイデアを織り交ぜつつ“村”としての機能を充実させていきたい。

成果と工夫したポイント



成果

荒廃が進み誰も寄り付かなかった森が手入れされ、里山の暮らしを学べる憩いの空間が創出された。次世代を担う子どもたちや若い世代が何度も活動に通うようになり、森への愛着が強まった(愛着度100%向上)

工夫

森の入口に、整備材を使った建造物をつくったり、森の探検MAPを制作・設置し、興味を引くようにした。